

2019.7.1 第173号 **ながの**  
**社会福祉士会** NEWS

■発行：公益社団法人長野県社会福祉士会  
 会長：萱津 公子  
 ■編集：広報編集委員会

■事務局：〒380-0836  
 長野市南県町685-2 長野県食糧会館6F  
 ■発行部数：2,300部

■TEL：026-266-0294  
 ■FAX：026-266-0339  
 ■E-mail：info@nacsww.jp  
 ■HP：http://nacsww.jp/

目次	■2019年度 福祉まるごと学会 …………… 1	■特集 新人さん いらっしやい! …………… 6～7
	■実践研究発表 並びに 指定報告レポート …………… 2～3	■東信地区学習会 …………… 8
	■長野県社会福祉士会 新時代の新役員体制選出!! …………… 4～5	■信州ぐるっと!! …………… 8
	■リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～ …………… 5	■今後の予定 …………… 8
		■編集後記 …………… 8

Nagano Association Certified Social Workers

## 2019年度 福祉まるごと学会

～社会福祉士・専門職として、実践を言葉で伝える力を高める!～

去る6月8日(土)、茅野市中央公民館にて、県下から133人が参加して、福祉まるごと学会が開催された。前半は、実践研究発表と2つの指定報告を行い、後半はフリージャーナリスト・内山二郎氏を迎えての講演が行われた。

**【講演】**

### 参加者を惹きつける「場」の 作り方とファシリテーションの技法

講師 内山二郎氏 (フリージャーナリスト)



#### 芝居づくりと地域づくり

神奈川県で生まれ、現場で暮らしている人と生活をともにし、嘆きやつぶやきを受け止め、映像にすることが私の原点である。

体調不良で長野に戻った際、地域をテーマに若者やお年寄りも一緒になって、話し合いをしながらお芝居をつくった。このプロセスは、地域をつくりあげるプロセスと同じと実感した。

#### 社会参加で生存率が変わる

昔は、サービスが整っていなかったが地域の中で、見守り、助け合いがあったが、現在はなくなってしまった。介護保険法も改正され、どういふコミュニティが必要か考える時にきている。

社会参加した人、しない人では、生存率が違う。社会とつながって生きることが重要で、色々役割を持って行うことが、認知症予防にもつながる。その人ならではの誉れある長寿社会の実現が必要である。地域の現状を知ったり、関心事をみつけたりなど、その自発性や行動に対して、社会参加の意味づけをすることが大事なことである。

#### ウィンウィン理論等

ワークショップは、それぞれの意見から創造的解決案を生み出す「ウィンウィン理論」や自由な意見交換、

協働作業が気づきや新しい発見が広がる「ジョハリの窓」により新たな方向性を見いだすことができる。

ワークショップに参加する時は、①他人の意見を否定しない②全員参加の原則③楽しさや感性を大切に④一人ひとりが主役⑤自由な発想を存分に活かす⑥相乗(シナジー)効果の妙を知る、以上の6つの原則を守ることが大切である。ワークショップにおけるプログラムの展開も流れのなかで重要であるといえる。

#### 緊張を解し、楽しい雰囲気をつくること

ファシリテーターの役割は、参加者の気持ちや意見を中立的な立場で引き出し、合意形成に導く「産婆役」といえる。求められることは、みんなはリラックスして、本音で意見が言え、建設的に話し合いが進められるように、緊張をほぐし、楽しい雰囲気をつくりだす技能(スキル)が求められる。ファシリテーターは、気持ちの変化を認めながら、傾聴しつつ、口調、呼吸のペースやボディランゲージを大切に進めることが必要である。

その場を可視化する技法として、カードセッション法とファシリテーション・グラフィック、寄せ書き風バズセッションや旗揚げアンケート方式ディスカッションを用いると、課題の共有がしやすいといえる。

# 実践研究発表 並びに 指定報告レポート

## 権利擁護①

「高齢者虐待対応で施設入所になったケースの考察」

和田 健太郎 氏

地域包括支援センターにおいて、権利擁護業務で、高齢者虐待ケースの対応が求められる。今回の報告は同居家族による高齢者虐待の対応において、結果的に本人の「自宅で生活したい」という意向に沿えず、生命保護優先という方針で施設入所になった事例である。

支援者はジレンマを感じた。家族、近隣住民、福祉事務所、警察、保健センター、介護支援専門員、訪問看護師、老人保健施設職員、施設看護師といった多職種によるケア会議を、状況の変化に応じて参加者も変化しながら繰り返し行い、支援方針を決めた。

多職種によるケア会議では客観的な情報を共有し、本人の意思を形成、表明する支援を行い実現に向けた検討もしたが、虐待、認知症、養護者への支援、地域との関係性といった阻害要因があり、意思実現ではなく生命保護を優先すべきであるという結論に達した。

地域包括支援センターとしてやるべきことはやったが、「失敗事例」として振り返った、後悔が残る事例である」と結んだ。



## 権利擁護②

「介護の質に影響を与える介護職員の考え方と介護方法に関する研究」

北沢 将広 氏

特別養護老人ホームで行われている介護方法の現状と職員が介護方法を選び決定する時の考え方を参与観察とインタビュー調査を行い分析した。

参与観察では、食事介護場面に焦点をあて、介護方法が利用者主体なのか職員主体であるのかを分析した。インタビュー調査では、職員にインタビューを行い、それを逐語録に起こして分析し、職員が介護方法を決定する時の考え方を明らかにした。

調査の結果、「過介助」「促しの声掛け」が反復・連続していることが明らかになった。また、職員の考え方で重要となっているのが「時間内により多くの利用者を介護する」というものであり、そのためには利用者の意思が犠牲になってもやむをえない風潮、風土が確認された。

特別養護老人ホームではパターンリズムが起きやすく、介護内容はルーティンワークとなり作業化しやすい。ただ漫然と「過介助」「促しの声掛け」を続け、等閑視することは介護の質を低下させ、不適切な介護や虐待につながる可能性を報告した。



## 相談援助①

「生活困窮ケースから見えるチーム支援の在り方」

佐藤 尚治 氏

昨今、経済的困窮のみならず排除や社会的孤立などから起きる関係性の困窮といった問題から生活困窮者自立支援法が施行され、徐々に課題が解決されてきた。

その中で、各関係機関がチームで支援を行うことの重要性や有効性について考察することを目的に発表がなされた。

まいさば信州長野における新規受付相談において、チーム支援を意識しながら件数を増やすことで、連携窓口の拡がりのみならず、それぞれの垣根が低くなりつながりやすくなったことや、関係機関の情報共有が頻繁に行われるようになった。

連携することの有効性や意味が肯定的に連携機関に浸透し、支援機能が発揮されている成果を感じ、チーム支援は本来あるべき地域の姿に近づける有効な手段である。

支援を必要とする方が安心して地域で生活できる為に、日ごろの業務においての連携の重要性を再確認する発表となった。



## 相談援助②

「多重債務等様々な問題を抱えた入居者に対する社会福祉士の支援役割について」

大久保 直子 氏

さまざまな問題を抱えるケースに対して、社会福祉士に求められる役割について考えた事例の報告。多重債務のみならず、健康問題や身元引受人不在等の課題が次々と起きるなか、現状を受け入れることができないケースである。

本人に対し、何度も話し合い、時間をかけて関わった。家族支援が見込めず、その役割を代わりに担っていた部分も大きく、「生きて借金を返したい。」という本人の望みから、自己破産の手続きが終わった際には、「いつもそばにいて支援してくれたことがうれしかった。ありがとう。」と言ってもらえたと言った。

社会福祉士が担った役割は、手続きや調整など一つひとつは些細なことではあったが、本人が再び当たり前の生活を取り戻すためには、チーム支援をした司法や行政などの他機関と同様に必要不可欠な存在である。裏方ではあるが生活を支える重要な役割であり、それこそがこの仕事の魅力でもあると締めくくった。



### 相談援助③

#### 「精神疾患を持つ利用者の特養入居後の生活」

上松 幸代 氏

本人が望む生活を送るためには、どのような支援が必要であるか、また精神科を受診することで、本人の生活や環境、職員との関係などが受診後にどのように変化したかについて考察した実践研究発表。

当初は低所得であるために医療費や日用品購入代金、理美容代が捻出できないこと、脳出血後遺症により常に右半身に痛みを訴え、精神状態が落ち着かず希死念慮や拒薬、職員への暴力などの課題があった。経済的な課題に対しては、減免などの社会制度の申請を家族と行い、浮いたお金を施設の預かり金サービスで管理することで解決を図った。

また精神科医師から本人の病状や介護をしていく上での助言を得ることで、職員がその情報を共有し統一した介護を行うことで、精神的に落ち着いて過ごすことができるようになった。

今後は本人の生活の質の向上のために家族の協力も得ながら、生きる希望の糧を本人と職員と一緒に見いだしていくことが重要であると提起された。



### 実践研究

#### 「有償ボランティアの課題解決に向けたソーシャルワーカーの役割」

増田 倫弘 氏

長野市の「地域たすけあい事業」について、地域住民と介護支援専門員に認知度調査を行い、他の地域の取り組みや評価結果とも照らし合わせた。

その結果、地域住民は知らない方が大半だが、興味を示した方もいた。一方で、ほとんどの介護支援専門員が事業を把握していた。また、全国社会福祉協議会の調査では「担い手不足、後継者不足」の課題があるが、地域には実際やりたいと思っている住民もいる。

ソーシャルワークの中の技法としてケアマネジメントがあると考え、今回は介護保険の介護支援専門員をソーシャルワーカーとして、その役割を考察すると、資源の維持向上に対しても働きかける役割があると認識する。他の利用者や地域のため、“正の連鎖”を継続させていくことがソーシャルワークの重要な意義である。介護支援専門員もその専門性や自らのネットワークを駆使し、資源に多角的にかかわり続け、潜在資源を掘り出し、草の根活動していくことが重要といえる。



### 指定報告

#### 「福祉避難所緊急実態調査」ふまえた防災福祉の推進について

長峰 夏樹 氏

長野県社会福祉協議会が平成30年度に行った福祉避難所名簿に公表されている福祉・介護事業所を対象にした福祉避難所の緊急実態調査について報告。

調査の結果、受け入れ体制やマニュアルの整備、訓練の実施など、準備や運営に関して十分な検討がなされていないこと。防災面では福祉避難所は二次避難所として認識しているが、福祉現場では発災直後から避難者が頼ってくると認識していることから、防災と福祉のギャップがあることが明らかになった。

今後について、市町村の役割としてハード・ソフト両面での備えを促進し、福祉・介護事業所は積極的に市町村との協議を進める必要があること。福祉・介護事業所は地域住民との連携を深め、福祉の専門性を活かした役割を発揮すべきであると提言された。平成31年2月に発足した災害福祉広域ネットワーク協議会では今年度から平時の仕組みづくりと有事の体制づくりや人材育成を進めていく予定である。今後の社会福祉士会の役割に期待したい。



### 指定報告

#### 「社会福祉士における「実践研究」の研究手法」

熊本 圭吾 氏

社会福祉における「実践研究」は、専門知識と実践方法の統合と普遍化をめざす取り組みとされている。

①クライアントの課題がどこにあるのかという判断【仮説立案】→②その判断に基づいて何をしたか【仮説に基づいた介入（実験）】→③その結果クライアントや状況はどのように変化したのか【結果の評価】→④その変化は当初の判断から予想されたものだったか【評価に基づく仮説の検証】という過程は、仮説検証型の研究と類似している。実践における①～④の根拠が記録である。

判断や変化の根拠として、第三者に対しても説得力があり、変化や差異が比較可能な記載がなされている記録であれば、いろいろな切り口で研究が可能である。医学が経験・知見の積み重ねを行って、治療方法や理論の普遍化を進めたように、社会福祉学もシステムティックに、共通した内容・共通して理解できる枠組みを積み上げていくことで、専門性を高めていけると考える。



# 長野県社会福祉士会 新時代の新役員体制選出！！

6月8日(土)、本会定時総会は、茅野市中央公民館において正会員703人(委任状含む)が出席して開催された。総会の決議承認事項では、平成30年度の収支決算について承認した後、次期役員(理事・監事)の選出が行われた。

定時総会終了後の臨時総会では、代表理事・会長に萱津公子、副会長に上條通夫、長戸桜子を選出した。選出された役員の抱負を紹介する。



## 新役員(理事・監事)の抱負

### 正副会長

**萱津 公子**(会長・全県選出理事)

私が取り組みたいことは以下のとおりです。①あらゆる機会を通して、入会の意義や自己研鑽の場としてのメリットを伝え、生涯会員の有意性を発信する。②本会の中期的展望を見据えた計画の立案を目指す。③行政機関へ政策提言等ができる活動をする。④本会の安定的運営が可能な組織体制を継続する。

会員の皆様の力の結集をお願いいたします。

**上條 通夫**(副会長・全県選出理事)

副会長としての一期の経験を踏まえ、改めるべきことは改め、従来からの活動の良いところは継承し、本会に入会して良かったと実感していただけるように、また、本会の存在を地域に認識していただけるように活動していきたい。この実現のために、会員の力を合わせて本会ならではの地域貢献をしていきたい。

**長戸 桜子**(副会長・全県選出理事)

専門職として各分野で働く私たちは、しばしば壁にぶつかります。目の前の課題を解決したい時、さまざまな分野で力を発揮している県内の社会福祉士同士のサポートは大きな支えになります。利用者支援のために、分野を超えて連携し、お互いが支え合う環境をつくり、社会福祉士として、大切な相談援助や権利擁護などの専門性を高められるよう研修を充実させていきます。

### 地区担当理事

**岩澤 純**(東信地区・支部長)

本会としては社会福祉士職能団体の公益社団法人の立場から社会や行政に意見や情報を発信していくことが重要であると考えています。地区支部の活動としては、一人でも多くの会員が参加しやすい学習会や交流会を実施して、会員同士の顔の見えるネットワークを拡げていきたいと思っております。

**塩澤 宏之**(北信地区・支部長)

地区支部として地域の福祉に貢献できるよう、学習会や交流会を通じて会員同士のつながりや学び合いの

場づくりを推進したい。

また、これまで地区支部で取り組んできたテーマや課題等について、引き続き関係団体等と連携して取り組んでいきたい。

**田中 雄一郎**(中信地区・支部長)

資格取得を目指す方・取得した方が社会福祉士会の取り組みを知ってもらえるようにしたい。

また、社会福祉士間のつながりだけでなく、地域住民と社会福祉士および本会のつながりをもてるような取り組みで1人でも多くの社会福祉士会活動への参画者を増やしていければと考えています。

**小川 明子**(南信地区・支部長)

社会福祉士会地区支部として、3ブロックそれぞれで学習会や交流会を通じ、地域の福祉に貢献できるよう、会員だけに留まらず関係職種・機関とのネットワークや学び合いの場を作っていく。社会福祉士の社会的認知を深めるとともに、本会の存在意義や入会率の向上を図っていきたい。

### 委員会担当理事

**佐藤 もも子**(福祉活動委員会・委員長)

委員の皆さんと活動を深め、現在の福祉課題の学習・検証・研究と、社会的発信をしたい。また、ソーシャルワーク専門職であり、県民の権利擁護の要である社会福祉士の専門性の追求と向上について、自身の実践の省察を続けながら、できる限り尽力したい。

**宮本 雅透**(虐待対応委員会・委員長)

極めて重大な権利侵害である虐待は、緊急かつ適切な介入的支援が求められ、生活全般を捉える広い視点、さまざまな制度等の知識に加え、社会福祉士の持つ高い専門性とスキルが必要となる。本会と弁護士会との連携体制を強固にし、研修や専門職チームの派遣などを実施したい。

**奥原 和彦**(広報編集委員会・委員長)

公益社団法人として社会福祉士会が、県民に対し、広く権利擁護を周知できるようにしてまいりたい。ま

た会員相互のスキルアップ、情報共有のツールとなる  
広報紙にし、県内外に社会福祉士が認知されるよう広  
報活動に務めていきたい。

### 青木 靖志

(生涯研修センター運営委員会・委員長)

社会福祉士には、多様化・複雑化する課題を抱え、  
孤立しがちな人々を、地域で支えていく社会の実現の  
ための機能の発揮と、他の専門職や地域住民との協  
働・連携等の役割が期待されている。このため、より  
実践的な能力の獲得に向けた研修、研鑽の機会の提供  
に努めていきたい。

### 北原 俊憲

(ばあとなあがの運営委員会・委員長)

権利擁護を取り巻く環境が変化する時代において、  
意思決定支援や合理的配慮などのキーワードは、他の  
専門職後見人とは異なる専門性を発揮できる視点で  
ある。このことを、ばあとなあ会員一人ひとりが認識  
し、行動できる実践活動を丁寧に積み重ねていき  
たい。

### 吉澤 利政

(地域定着センター運営委員会・委員長)

地域定着センターの運営委員の立場として、こ  
れまでの実績に加え、見えてきた課題等につい  
て、行政機関等と連携しながら事業が円滑に  
推進できるように努めるべく、運営主体の社  
会福祉士会の理事の職責を果たしていきたい。

## 外部理事

### 青木 寛文 (弁護士)

司法分野と福祉分野との連携が益々必要な時代にな  
ってきている中、その連携の一翼を担えるように微  
力ではありますが、努めて参りたいと思いますので、  
よろしくお願い申し上げます。

### 中島 豊 (大学教授)

養成校として、社会福祉士会と連携を取りながら行  
なっていかなければならない事柄は多いと考えられ  
る。一つずつ始めていきたい。その最初が大学院の設  
置であるといえよう。これまでに増して協力関係をつ  
くっていきたい。

## 監事

### 弓場 法 (公認会計士・税理士)

監事として、理事の職務の執行状況について、公正  
な立場から監査を行います。計算書類が一般に公正妥  
当と認められる公益法人会計の基準に従って作成され  
法人の状況を適正に表示しているか、理事の職務執行  
が法令定款に従っているか、さらに効率的な職務執行  
となっているかについて監査していきます。

### 青柳 與昌 (前副会長)

本会の目的として援助を必要とする県民の生活と権  
利の擁護および社会福祉士の職務に関する知識・技術  
の向上を掲げています。この観点から会が目的を果す  
努力をしているか、その上公益社団法人としてきちん  
と機能しているかを中心に監査していきたいと思いま  
す。

リレーエッセイ～リレー形式の寄稿～

## 「ある日の女子会で」

円城寺 樹里 (医療法人慈善会 安藤病院)



先日友人たちとお茶を飲みながら、「こんな家に住みたいと思ってるんだけど…」  
とか「こんなふうに働けたらいいよねえ」といった話で盛り上がった。そしてその  
帰り道にふと、思い出した。自分たちの希望を友人と話ができる、自由に自分の希  
望することを選択できることの幸せを。

よりよい生活を求める以外にも、もし今自分が病気になったり障がいを負ったり  
して、自分だけでは叶えることが難しい希望がでてきたとしても、それを相談できる人、実現するために助  
けてくれる人や社会の仕組みがある。そして、希望を持つことができる。

そんな今の社会があるのは決して当たり前ではなく、個人の権利を守り、社会福祉を推し進めてきた人た  
ちの活動の積み重ねがあったから。

一時的に困ってしまっている人に元気になってもらえて、お手伝いする側も元気をもらえる、そういう積  
み重ねの一つひとつが、すべての人が自分の希望を叶えることができる、希望を持つことができる社会に繋  
がっている。そんな社会づくりの役割の一部を担う社会福祉士の素晴らしさに、改めて気づいた出来事だった。

\*次号は、上田生協訪問看護ステーション 土屋 江子さんにバトンタッチします。

## 東信地区

所属：NPO法人 普通の暮らし研究所  
岩井屋 障害者（児）相談室

氏名：所 千鶴子

職種：相談支援専門員

業務内容：東御市のNPO法人に相談支援専門員として従

事しています。障がい者（児）のケアマネジャーとして、支援全体を俯瞰してみることができる面白さがあります。同時に、いかに公平中立であるか、が求められる職種とも感じています。



### ① 社会福祉士を志した理由

転職は何回かありますが民間企業の人材育成を担当してきました。早期退職して社会起業家養成セミナーに参加し、株式で立ち上げたばかりの障がい者就労支援事業所で実習、そのまま起業もせず現在に至る、といった経歴です。福祉は初めてで体当たりのスタートでしたが、やはり学びは必要と感じて勉強をはじめ、平成27年に合格、登録しました。昨年9月に長野県へUターンし、社会福祉士会へ加入しました。ようやくスタートラインに立ちました。

### ② 社会福祉士としての意気込みや抱負

プライベートでは、常に清廉潔白・公明正大であり続ける訳ではありません。ですが、職務上は中立、公平無私でいたい、と凶々しくも（恐れ多くも？）考えています。1日も早くそうした立ち位置にいきたい。いつ実現させるか、ですね。だれも置き去りにしない、が実現できたらと。見果てぬ夢でしょうか。

### ③ 座右の銘または好きな言葉

#### 【SMART】

Specific（特定の目的を持つ）、Measurable（適度の）、Achievable（成し遂げられる）、Realistic（現実的な）、Timed（ふさわしい時を選ぶ）の頭文字をとって「SMART」。残念ながら出典は覚えていませんが、毎年新しい手帳に転記し続け、「ときどき」「今日（今週・今月・今年）は何をやった？何を達成した？」と振り返り…ま、「ときどき」ですから、進歩のない私です。ものの考え方とボディラインはいつまでもスマートでいたい！

### ④ 社会福祉士会で取り組みたいこと

今まさに直面しているのが「身元保証問題」についてです。他人事ではないこともあり、関心が高いです。人生100年時代！これからです。アクティブにいこう！と自分に喝！

## 北信地区

所属：地域生活支援センター CoCoながの

氏名：羽田 大介

職種：生活支援員

業務内容：利用者様の日常生活を安心安全に送っていただくため、グループホームの生活支援・移動支援・行動支援などさまざまな業務を行っております。

掃除や家具の組み立て、病院や役所への付き添いなど、日常の困り事を一緒に解決しています。



### ① 社会福祉士を志した理由

精神保健福祉士は取得していましたが、仕事をするうちに、退院しても体調を崩して再入院・就職しても続かずに退職になる利用者様・患者様が多くいることを見てきました。ご本人が辛い思いを繰り返してしまい、生活も改善されていない実態を見て、何とかする方法を模索する中で、自己研鑽として社会福祉士を取得しました。

### ② 社会福祉士としての意気込みや抱負

皆様の安心安全な日常生活のお手伝いをしたいと考えています。日常の小さなことでもストレスが少なくなれば、生活も楽しくなります。

家で療養が上手く行かず悪化して再入院。仕事が見つかって、生活がボロボロで体を壊して退職。そんな事案が1件でも少なくできたらいいなと思います。

### ③ 座右の銘または好きな言葉

「努力は必ず報われるわけではないが、成功した人は皆、努力している」

考えて考えて、丁寧に準備をしても、上手く行かないことのほうが多くて、諦めたくなります。でも、今の状況をよくするためにはいろいろなことを実践していかないと成功にはつながりません。上手くいかなくてあたりまえ、それでも諦めないで試行錯誤してアプローチすることを意識しています。

### ④ 社会福祉士会で取り組みたいこと

色々なことを学べる場なので、さまざまな知識や情報を吸収させていただくつもりでいます。

後見人について、今後の社会ではとても重要になってくると考えているので、その知識を身につけていきたいと考えています。

社会福祉士国家試験合格おめでとうございます。そして長野県社会福祉士会に入会いただき、誠にありがとうございます。長野県社会福祉士会は、公益社団法人として各種セミナーや研修を行い、県民生活の支援と権利擁護を図り、誰もが住みよい社会づくりをめざします。今号では新入会員の皆様から、社会福祉士を志した理由、意気込みや抱負について聞かせていただきました。新入会員の皆様、ともに社会福祉士として自己研鑽してまいりましょう。

## 南信地区

所属：箕輪町  
社会福祉協議会  
氏名：早川 恭世  
職種：地域福祉コーディネーター  
福祉活動専門員



業務内容：地域での困りごとを地域の皆さんと一緒に受けとめ、解決のための仕組みづくりや専門機関との連絡調整を行い、住民主体によるお互いさまの地域づくりのお手伝いをしています。また、福祉活動専門員として金銭管理にお困りの方の支援をしています。

### ① 社会福祉士を志した理由

昔から困っている人を見ると何かしらお節介をしていました。そのうちに福祉の仕事、特に相談業務に興味をもち、社会福祉士を志しました。

実は卒業時に試験に落ちていて、その後数年間、社会福祉士の資格のないまま障がい者支援の仕事をしていました。

仕事をしていくうちに自分の支援には根拠もスキルも不足していることに気づかされ、再受験しました。

### ② 社会福祉士としての意気込みや抱負

偏りのない視点をもてるよう、いろいろなことを学び経験し、吸収していきたいと思います。

そして「黒子」のような存在でありたいと思います。

### ③ 座右の銘または好きな言葉

石川啄木の「飛行機」という詩の、「見よ、かの蒼空に飛行機の高く飛べるを」という一文が好きです。

高校を卒業する時に現代文の先生が贈ってくれた詩で、今も苦しいなと思った時に自然と心に流れてきます。さまざまな考察がされている詩ですが、私は単純に「苦しさもいずれ身になるよ」と励ましてくれる詩だと受け止めていて、今も大事にしています。

### ④ 社会福祉士会で取り組みたいこと

各種研修や講演会などにできるだけ参加して、スキルアップを目指したいと思います。

ご指導のほど、よろしくお願いします。

## 中信地区

所属：中信社会福祉協会  
障がい者支援施設  
共立学舎  
氏名：横林 大亮  
職種：支援員



業務内容：身体・知的・精神等に障がいをもつ皆さんの為の生活介護の現場で、創作活動の補助・食事・散歩の同行支援などを担当しています。

### ① 社会福祉士を志した理由

「困っている方を助けたい、多数の意見に流されたくない」という思いが強く、そのような学問を調べていくなかで、社会福祉士という資格があることがわかりました。また福祉の分野で、制度や法律の枠から外れて、必要とするサービスが利用できない方々が多くいます。そのような方々に対して、考えていき、提案することができる専門職としての社会福祉士を目指しました。

### ② 社会福祉士としての意気込みや抱負

現在、障がい者支援施設の支援員として勤務しています。今の制度や環境が本当に良いのか、という疑問を感じる事が多々あり、社会福祉士として制度や法律を学ぶことはもちろんのこと、利用者の気持ちをくみ取りながら、考えていくことができる社会福祉士になれるよう、さらに現場でも利用者とのコミュニケーションを大切にしていきたいと思います。

### ③ 座右の銘または好きな言葉

「失敗は成功のもと」

今までの人生では、失敗を恐れ、自ら積極的に行動することができませんでした。そのため現在仕事をするなかで、利用者の方々とコミュニケーションを大切にし、失敗を恐れることなく、行動できるように日々、取り組んでおります。

### ④ 社会福祉士会で取り組みたいこと

私は大学卒業とともに社会福祉士を取得しましたが、制度やコミュニケーション力など不足していることばかりであるため、研修にたくさん参加したいです。社会福祉士として、頑張っていけるように、たくさん勉強をさせていただければ、と思います。よろしくお願いします。

## 東信地区学習会

日 時：令和元年5月18日(土) 13:30～16:00  
場 所：小諸市市民交流センター2階 第4・5会議室



東信地区では6年前まで土曜の午後や平日の夜に事例検討会を開催してきたが、参加者の減少やメンバーの固定化でフェイドアウト。今年度、通常の学習会のほかに、事例検討会の開催を決定。1つの事例について参加者同士での意見交換を行い、専門領域や新人・ベテラン関係なく社会福祉士としての専門性を高めていくため、またネットワークづくりの一環とすることも目的に掲げた。

出席者20名の自己紹介では特技や近況の報告を通じて、和気あいあいとした雰囲気。新副支部長の田中さん（浅科望月地域包括支援センター）が、終結ケースではあるけれど「何が正解かわからない」「今後も同様のケースに関わったら、また接し方に戸惑いそう」とモヤモヤしている事例を提出。基礎研修Ⅲ受講時に同じ事例を提出した際、一緒に検討したメンバーが偶然参加していて「活発な意見交換を通じて、印象に残るコメントや参考になる意見などの収穫が多かった」と発言。昨年度 社会福祉士試験を突破したばかりの参加者が「事例発表や意見交換を聞いているだけで、気持ちがザワついた」とコメントしたのは、他者の事例を通じて支援者・本人・家族など、いろいろな立場に立って考える機会になったから？ 普段の業務の中で丁寧な振り返りを行ったり、同じ職種の意見を聞いたりする機会を持つのは難しいので、貴重な時間だった。次回は秋に開催予定。事例を出してみたい方は、副支部長までご連絡を！

中野 純（東信地区 広報編集委員／介護支援センターゆとり）

## 信州ぐるっと!! ～県内の特色ある福祉活動を紹介～

### 「子どもたちとのかかわりの中から」

神 原 井（北信教育事務所スクールソーシャルワーカー）



中米ニカラグア共和国の小学校の様子

長野県での生活が5年目になりました。これまで東京で子育て支援や児童虐待対応などに携わり、一時期は途上国で現地の行政やNGOの職員に対してソーシャルワークの指導も精力的に行ってきました。現在も施設のスーパーバイザーとして新幹線で往復することもあります。でも、やはり地元で根ざしたソーシャルワークが恋しくなって、この4月から今の職場でお世話になっています。

今私は、新たに個人的に楽しんでいる活動があります。ママ友たちとの“おとなのための性教育”の勉強会です。乳幼児期から児童期の科学的な性のメカニズムや性をテーマにした親子の関わり方を中心に、子育て中の父母が時には大笑いしながら学びあっています。

茶話会の域を超えませんが、隔月くらいのペースで開催し、毎回10～20人くらい集まります。

私にとって、この活動の根っここの部分はこれまでかかわってきた多くの子どもたちからの学びと深くつながっています。子どもたちが自己肯定感（観）を育み、自身の人生や暮らしの主役として歩むための源がこの活動に詰まっていると考えています。

## 今後の予定

最新の予定は、本会ホームページ（<http://nacsw.jp>）をご覧ください。

期日(曜日)	事業名・研修名	会場	備考
7月28日(日)	『ソーシャルワーカーの使命・役割』を考えるフォーラム	篠ノ井総合病院	講師：稲沢公一氏
8月24日(土)	第3回理事会	ささらの里	
8月29・30日	地域福祉コーディネート講座	松本市勤労者福祉センター	

◎ 入会状況（2019年5月末現在） \* 会員数：1,141人 入会率：27.84% 人口10万人あたりの会員数：54.96人

## 編集後記

地域共生社会の実現がうたわれるなか、昨今ショッキングな殺傷事件や虐待事件が起きております。社会福祉の専門職の在り方が問われてきている今こそ、さまざまな諸課題に対して協働し、解決できる体制の再構築が急務です。今回の福祉まるごと学会は、「社会福祉士・専門職として実践を言葉で伝える力を高める！」がテーマでした。専門職としての価値観を大切に、常に自己研鑽し、発信できるソーシャルワーカーが増えることを期待しております。

(K.O)